

平安女学院 中期経営計画 (2020年度～2024年度)改訂版

中学校・高等学校

		第3次中期経営計画中の目標等			
		旧目標	新目標		
(5) 中学校・高等学校	イ.目標・課題・取り組み	(ア) 教育目標の課題と取り組み	学力と相関関係が実証されている学習規律の確立を重視する。取り分け「聞く」「話す」態度の指導を強める。	⇒	「いのちを大切に」「愛と平和を実践できる」人格の育成が教育目標の根幹である。その達成のために礼拝をはじめ各種行事・授業等の教育活動を通じて達成させる。
			生徒の成長を促す生活指導においては、自分で「考え・判断・行動」する能力を養うことは、主権者教育・成年年齢の引き下げの視点からも重点をおき指導する。		生徒提要の改革に基づき、校則見直しをはじめ、生徒の権利を前面に打ち出す生徒指導の観点を教職員研修を通じて徹底し、生徒には、自己判断できる力を身に付けられるように励ます指導を行う。
			自他認識の向上を図るためには「出会いの数だけ自分の多面性に気づく」「自己を知るヒントは他者にある」ことを留学や姉妹校交流・コース合同クラス充実させていく。		授業改革に重点を置き、「何をどのように学ぶか」について教材の精選・学びの質・学びの方法の改善を図る。教科実践の交流・研修を通じ、すべての教員は授業力向上に努める。
			学校教育方針の理解と協力を求めつつ、保護者が学校の「最強の応援団」である関係性を維持発展させる取り組みを強める。		
	(イ) 入学者確保における課題と取り組み	中高とも、多くが大学入学共通テストの迷走等による立命館進学コースの志望者増による点を鑑み、他のコースの生徒数の安定的確保のための要件を検討する。	5か年計画に基づき、中学生55名、高校生150名を各学年で達成するために、生徒・保護者に支持される教育内容の改変を行う。同時に本校の教育目標の意義を現代的課題と合致することを広く周知できる教育広報を行う。		
		ESコースの改廃を行ない、立命館コースの定員増員への大学への働きを継続する。	少子化・共学志向が強まる中で、安定的な生徒確保は困難を極めるが、教育内容の充実と信頼される学校としての生徒・保護者との関係性の構築を柱に未来に求められる教育改革を推進させながら、募集活動を推進させる。また、地域活動、ボランティア活動をより発展させながら市民に支持される学校づくりを広報する。なお、小学生を対象とした各種教室を発展させる。		
中学生の確保については、現在実施している入試制度の改善を図ると同時に、小学生対象の体操・英語教室の充実発展を図る。					